



## ごあいさつ

平素は飯田信用金庫をご愛顧賜り、誠にありがとうございます。  
心よりお礼申し上げます。

みなさまがたに当金庫の業績をより良くご理解いただくため、今年もディスクロージャー誌「HOTLINE(ホットライン)2022」を作成いたしました。本冊子をご高覧いただき、私どもの現在の姿をご賢察いただければ幸いです。

令和4年 7月

理事長 **小池 貞志**

### ■ 金融経済環境

令和3年度の日本経済は、長引く新型コロナウイルス感染症の影響の下、緊急事態宣言の発出、まん延防止等重点措置の適用もありましたが、一部の業種を除き厳しい状況は徐々に緩和され、持ち直しの兆しがみられました。

こうした中、世界的な供給面での制約や原油等資源価格の高騰による輸入コストの上昇がインフレ圧力につながり、個人消費の停滞を招くなど、コロナ禍からの正常化に向けた回復の動きが抑制されることも懸念されます。加えて、2月に勃発したロシアのウクライナ侵攻により、今後の世界経済は一層不透明さを増しております。

一方、当地域の経済情勢につきましては、リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の工事の進展もあり、今後の発展に対する期待感が高まっておりますが、やはり新型コロナウイルス感染症や資源価格上昇などの影響は大きく、見通しは極めて不透明であると言わざるを得ません。

### ■ 令和3年度の取り組み

令和3年度は、第8次中期経営計画「架け橋2028 First Stage ~改革へのチャレンジ~」の最終年度として、「業務改革」に一層注力したことから、当初計画を大きく上回る経営資源(時間・人・資金)を創出することができました。また、前年度に引き続き「信用金庫らしさに磨きをかける」を経営計画のテーマとし、最重点目標に「信用金庫ならではの支援力を発揮する」を掲げ、コロナ禍に苦しむお客さまの資金繰り支援のみならず、新たな事業展開に挑戦するお客さまへの各種補助金の申請支援等についても迅速かつ柔軟に対応するなど、信用金庫らしさを十分に発揮した1年となりました。

令和3年度は主要な財務目標として、①預金平均残高40億円増加、②貸出金平均残高10億円増加、③当期純利益13億円を掲げ取り組みました。預金は堅調に推移し増加目標を大きく上回り、貸出金もコロナ禍のお客さま支援に真摯に取り組んだ結果、ともに増加目標を達成することができました。また収益環境は引き続き厳しい環境下ではありましたが、当期純利益目標を達成することができました。

### ■ 令和3年度の業績および決算概況

預金の期末残高は、前期末比128億43百万円、2.20%増加し5,952億50百万円となりました。当初想定した法人預金の流出も一部に留まり、年金の歩留まりを主因として個人預金が大きく増加しました。

貸出金の期末残高は、前期末比31億26百万円、1.21%増加し2,607億33百万円となりました。コロナ禍による資金繰り対応を継続するとともに、住宅ローンを中心とした個人向け貸出金需要への対応により堅調に推移しました。

有価証券運用では、国債や投資信託などの購入により残高を積み上げたことから、期末残高は前期末比19億35百万円増加し3,163億54百万円となりました。一方、長期金利の上昇や株価の下落などにより、有価証券の評価益は前期末比32億49百万円減少し296億26百万円となりました。

収益の面では、利回り低下の影響により貸出金利息収入が減少した一方、有価証券利息収入の増加と経費の減少によりコア業務純益は前期比7億44百万円増加の37億54百万円となりました。また貸倒引当金繰入額が減少したことから、経常利益は前期比12億56百万円増加の32億7百万円、当期純利益は前期比4億58百万円増加の22億23百万円となりました。

### ■ 展望と課題

令和4年度からの3カ年計画として、第9次中期経営計画「架け橋2028 Second Stage ~Change is Chance~」を本年2月に策定しました。この初年度となる令和4年度は、経営計画のテーマに「共感・協働・共創」、重点課題に「お客さまと地域の課題解決支援の強化」を掲げ、お客さまと地域の希望や喜び、不安や悩みに「共感」し、課題解決のために「協働」することにより、解決策や新たな展開の「共創」を実現させ、長期化するコロナ禍や物価上昇等に苦しむお客さまや地域の課題解決支援に取り組みます。金融機関を取り巻く環境は非常に厳しい状況ではありますが、お客さまと地域の課題解決を当金庫の「本業」として位置づけ、業務改革で創出した経営資源を集中的に投入し、令和4年度も役職員一丸となってさまざまな課題に積極的に取り組んでまいります。